



独立行政法人

大学評価・学位授与機構

National Institution for Academic Degrees and University Evaluation

機構ニュース

Vol.153 2016 February

今月の記事

Top News

○オーストラリアの質保証機関TEQSAとの
スタッフ交流を実施1

質保証連携

国内外の質保証機関等との連携

○米国のCHEA・CIQG2016年次会合に出席
.....2

○「キャンパス・アジア」モニタリング 日中
韓共同訪問調査（於：韓国・東西大学校）の実
施3

諸外国の質保証制度・動向情報の収集・ 整理・提供

○新規刊行物のご案内 一米国の高等教育質保証
システムの概要（第2版）ほか4

評価事業

○評価結果（案）の取りまとめ5

学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業生等を対象と
する単位積み上げ型の学位授与関係

科目履修生制度の開設大学一覧

○平成28年度版を当機構ウェブサイトに掲載
.....6

機構の窓

○会議の開催状況7

主要行事日程

○Schedule（2月～4月）8

TOP NEWS

○オーストラリアの質保証機関TEQSAとのスタッフ交流を実施

当機構は、豪州高等教育質・基準機構（TEQSA）との覚書に基づく協力事業の一環として、「TEQSAスタッフによる機構訪問プログラム」を平成28年2月1日（月）から5日（金）の5日間に渡り実施しました。同プログラムは、当機構とTEQSAの業務に関する情報・知見の交換を目的とし、プログラムには、TEQSAの評価実務を担うケースマネージャーのジュリアン・デイビス氏が参加したほか、チーフコミッショナーのニック・サンダース氏もこの機に合わせて来日し、同行しました。初日には、野上機構長、岡本理事、武市研究開発部長、土屋評価研究主幹、土光国際課長とサンダース氏、デイビス氏が懇談し、今後の両機関の連携方策について意見交換を行いました。

当機構からは、大学評価、学位授与をはじめとする各事業の説明セッションを設け、土屋評価研究主幹から評価事業について、吉川学位研究主幹及び森教授から学位授与事業について、金准教授から当機構が行う東アジア調査などについて説明がありました。TEQSA側からは、デイビス氏から、公開講演会と機構内勉強会を通じてTEQSAの評価事業の概要・実務について説明があり、双方の制度や体制について活発に意見交換が行われました。

また、文部科学省にて、前川文部科学審議官を表敬訪問したほか、お茶の水女子大学及び大学基準協会の協力により、同機関を訪問し、日本の高等教育の質保証等に係る取組みについて理解を深めました。

研修最終日には、デイビス氏から野上機構長及び川口顧問へ研修報告が行われ、デイビス氏からは、今回の研修が大変有意義なものとなったとのコメントが寄せられました。



サンダース氏と野上機構長



お茶の水女子大学訪問の様子



機構内勉強会の様子



大学基準協会訪問の様子

質保証連携

国内外の質保証機関等との連携

○米国の CHEA・CIQG2016 年次会合に出席

米国高等教育ア krediteーション協議会 (CHEA) および CHEA 国際質保証グループ (CHEA International Quality Group : (CIQG) の年次会合が、平成 28 年 1 月 25 日 (月) から 28 日 (木) に米国・ワシントン D.C. で開催され、当機構から 5 名の教職員が参加しました。

CHEA は、米国国内の機関別および専門ア krediteーション機関を認定し、当該機関の利益を代表する全米規模の民間非営利団体です。今回の年次会合は「The Future Is Now: Where Is Accreditation?」(今そこにある未来：ア krediteーションはどこに?) をメインテーマとして講演や分科会が行われました。



年次会合の様子

近年米国では、オンライン教育やコンピテンスを基軸にした教育などの従来型の高等教育に代わる‘新たな’高等教育が出現し、その質保証の在り方が大きな議論となっています。米国の連邦教育省が新たに導入する奨学金給付事業「EQUIP」(Educational Quality through Innovative Partnerships) は、大学、非伝統型の新たな教育提供者、質保証機関の三者が参画する教育提供事業に対してパイロット的に支援が行われるもので、今回の参加者からの注目を集めました。また、最近の米国のア krediteーション改革に関して、社会への透明性・説明責任という観点から、学習成果に軸足を置いた評価が重要であるとの意見も目立ちました。

CIQG は、CHEA が 2012 年 9 月に創設した国際質保証グループです。米国内外の質保証機関、大学、個人が会員となり、国際的な高等教育質保証に関する情報交換を主な目的としています。アジアからは当機構のほか、マレーシア資格機構 (MQA) や香港学術及職業資歴評審局 (HKCAAVQ) などが加盟しています。

今回の年次会合は、「Quality Assurance and Accreditation: Multiple Demands; Multiple Challenges」(質保証とア krediteーション：多様化する要求、多様化する課題) をテーマに各セッションが展開されました。中でも、昨年 5 月に CIQG が発表した「Quality Principles」は、高等教育の質保証に関する国際的な質の原則であるとして、アフリカや中東での活用例とともに紹介されました。また、CHEA と CIQG の共同の試行プロジェクトの「Quality Platform」は、非伝統型の教育提供者による教育の質を評価 (レビュー) する取組みですが、中国の民間教育事業者が初の認定事例となったことが紹介されました。

○「キャンパス・アジア」モニタリング 日中韓共同訪問調査（於：韓国・東西大学校）の実施

平成28年1月15日（金）、昨年からの中国、日本での実施に続き、韓国・東西大学にて、「キャンパス・アジア」2次モニタリングにおける日中韓三国による共同訪問調査を実施しました。今回の共同訪問調査では、モニタリング委員及び質保証機関関係者として、日本、韓国よりそれぞれ5名の参加となりました。

前日の14日（木）に実施した委員間の事前打合せでは、日韓の委員等により、訪問調査中の質問事項等について、都合により急遽欠席した中国の委員からの質問・確認事項も考慮し、協議及び確認を行いました。

訪問調査当日は、プログラムを実施する日中韓三大学の関係教職員及び学生が参加し、今後のプログラムの向上及び改善等に向け、委員との面談（プログラムの取組みについて質疑応答や意見交換）をしました。委員はこれまでに書面による調査を実施しており、面談ではそれを踏まえた質問や確認が行われました。

「キャンパス・アジア」2次モニタリングでは、昨年秋より、日本、中国にて日中韓共同訪問調査を英語にて実施していますが（参照①・②）、今回の共同訪問調査では、対象プログラムの共通言語である日中韓の3か国語で、通訳を介して行われました。プログラムの参加学生との面談においては、韓国の学生が通訳を務め、キャンパス・アジアで培った語学力を披露してくれました。また、日本と中国の学生は、テレビ会議を通じて参加し、修得した他国の言葉で、委員からの質疑にも闊達に対応してくれました。

今後は、書面調査や訪問調査等を通じて聴取した内容をもとに、報告書をまとめる予定です。



前日打合せの様子

諸外国の質保証制度・動向情報の収集・整理・提供

○新規刊行物のご案内 一米国的高等教育質保証システムの概要（第2版）ほか

当機構では、国内外の高等教育質保証の基礎情報や動向をはじめ、国際的な共同教育プログラムの質保証を図るうえで有益な海外の情報や事例を収集し、刊行物や概要資料にまとめて関係者に広く発信しています。

今回は、新規刊行物および翻訳資料として、諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要「アメリカ合衆国」の第2版、および、欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン（ESG）日本語版の2点を平成28年1月に刊行しましたので、ご案内します。

諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要「アメリカ合衆国」第2版（日本語・英語）



「インフォメーション・パッケージ」の収録資料の一つである同概要は、第2版として、平成22年3月に刊行した第1版を更新したものです。

第2版では、米国の「学位」以外の資格についても取り上げ、高等教育レベルの資格を網羅するよう内容の充実を図りました。また、資格枠組みのない米国において、開発の進んでいる学位の学習成果設定の取組み DQP (Degree Qualifications Profile) も紹介します。このほか、ディプロマミルの情報の改訂や、疑わしいとされる教育機関の特徴を掲載しており、実務や進学の参考にしていただければ幸いです。（平成28年1月刊行／日本語版・英語版34ページ）

欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン（ESG）日本語版

ESGは、欧州高等教育質保証協会（ENQA）や、欧州大学協会（EUA）が中心となってまとめた、欧州地域における高等教育の質保証に関するガイドラインです。内部質保証、外部質保証、質保証機関の3部で構成されています。2005年に第1版が策定され、2015年5月に第4版として改正されました。当該資料は、この改正ESGを日本語に翻訳したものです。（翻訳：平成28年1月/24ページ）

新規刊行物掲載先： 国際連携ウェブサイト

http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/

評価事業

○評価結果（案）の取りまとめ

平成 27 年度の認証評価については、平成 27 年 7 月から 12 月初旬にかけての書面調査及び訪問調査を基に、それぞれの評価部会において「評価結果（原案）」が作成され、平成 28 年 1 月下旬開催の大学機関別、高等専門学校機関別及び法科大学院の各認証評価委員会での審議を経て、「評価結果（案）」が取りまとめられました。

「評価結果（案）」は、その透明性と正確性を確保するため、各対象大学及び高等専門学校に通知されます。また、当該大学及び高等専門学校からの意見の申立ての経過後、各認証評価委員会において「評価結果」が確定されることとなります。

「評価結果」は、当該大学、高等専門学校及び設置者へ通知され、文部科学大臣に報告されるとともに、「平成 27 年度認証評価実施結果報告」として、印刷物の刊行、当機構ウェブサイトへの掲載等により、広く社会に公表されることとなります。

学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業生等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

■科目等履修生制度の開設大学一覧

○平成28年度版を当機構ウェブサイトに掲載

当機構では、科目等履修生として学習することを希望する方々が、大学の学部や大学院研究科を選ぶ際の参考となるよう、国公立大学を対象として科目等履修生制度の開設状況の調査を行い、その結果を取りまとめた上で当機構の[ウェブサイト](#)で公表しています。

なお、原則として平成 28 年度の開設状況等について掲載するようにはしておりますが、調査の時点で平成 28 年度の計画が未定の場合には、平成 27 年度の実績を掲載しています。

機構の窓

○会議の開催状況

- ・大学機関別認証評価委員会

第2回 平成28年1月20日（水） 14：00～17：00

議事

- （1） 評価結果（案）について
- （2） その他

- ・高等専門学校機関別認証評価委員会

第3回 平成28年1月15日（金） 14：00～17：00

議事

- （1） 評価結果（案）について
- （2） 平成28年度評価部会及び専門部会の体制等について
- （3） 認証評価検討ワーキンググループでの検討状況について
- （4） その他

- ・法科大学院認証評価委員会

第2回 平成28年1月25日（月） 15：30～17：00

議事

- （1） 評価報告書原案（本評価）について
- （2） 教育課程又は教員組織に係る重要な変更及び対応状況報告書の調査結果に対する評価結果に関する付記事項について
- （3） 平成28年度評価部会等の編成について
- （4） 法科大学院認証評価委員会規則に係る関連規則等の改正について
- （5） その他

主要行事日程

○ Schedule

2月

日	行事名	担当課
3日	豪州高等教育質・基準機構（TEQSA）による講演会	国際課
12日	学位審査会（平成27年度第4回）	学位審査課
15日	国立大学法人等の教育研究評価に係る評価者研修会	評価企画課
18日	国立大学法人等の教育研究評価に係る評価者研修会	評価企画課
22日	国立大学法人等の教育研究評価に係る評価者研修会	評価企画課
23日	学位記伝達式・講評	学位審査課
29日	国立大学法人等の教育研究評価に係る評価者研修会	評価企画課

3月

日	行事名	担当課
8日	高等専門学校機関別認証評価委員会（第4回）	評価支援課
10日	法科大学院認証評価委員会（第3回）	評価支援課
11日	大学機関別認証評価委員会（第3回）	評価支援課
11日	大学ポートレート運営会議（第4回）	大学ポートレート センター事務室
11日	学位審査会（平成27年度第5回）	学位審査課
15日	国立大学法人等の教育研究評価に係る評価者研修会	評価企画課
15日～ 4月6日	平成28年度4月期 学位授与電子申請受付期間	学位審査課
17日	国立大学法人等の教育研究評価に係る評価者研修会	評価企画課

4月

日	行事名	担当課
1日～7日	平成28年度4月期 学位授与郵送申請受付期間	学位審査課



独立行政法人

大学評価・学位授与機構